

決算に見る市の財政状況

健全な財政運営を維持

全国平均を上回る 財政状況

市の財政状況を表す主な指標に
経常収支比率、公債費比率、財政
力指数があります。

財政構造の弾力性を示す指標で
ある経常収支比率は、80%を下回
っていて良好といえます。公債費
比率も、前年度と比較し下回って
います。

財政力の強弱を示す目安となる
財政力指数は、連続して前年度を
下回っていますが、全国平均と比
べると依然として高い水準です。



整備が進む郷部線（不動ヶ岡）

・経常収支比率

収入に対して人件費や扶助費な
ど毎年必ず出ていくお金がどのく
らいの割合になっているかを示す
値です。通常、80%を超える場合
には、財政が弾力性を失いつつあ
ると考えられています。

・公債費比率

経常一般財源に占める公債費の
一般財源所要額です。この比率が
高いほど借入金返済のための経費
が多いことを表しています。

・財政力指数

地方公共団体の財政力を示す指
標で、この数値が大きいほど財政

力が強いとみ
ることがで
き、「1」以
上の団体は、
きわめて財
政力の強い団
体と考えられ
、普通交付税
の不交付団体
となっていま
す。

区分 年度	経常収支比率				公債費比率				財政力指数			
	本市	増減	全国平均	県内平均	本市	増減	全国平均	県内平均	本市	増減	全国平均	県内平均
13	71.0	1.9			9.8	0.1			1.469	0.001		
12	72.9	0.5	85.1	84.5	9.9	0.1	15.4	12.5	1.470	0.061	0.65	0.845
11	73.4	0.5	85.7	84.5	9.8	0.6	15.8	12.8	1.531	0.060	0.65	0.845

- ・13年度の全国・県内平均については、現在集計中のため空欄となっています。
- ・全国平均においては、670市の平均で、日本経済新聞社発行の「全国都市財政年報」から、県内平均は市平均で、千葉県発行の「市町村財政の状況」からの抜粋です。

決算審査意見書要約

成田市監査委員
藤崎 毅
山崎 昭男

平成13年度成田市一般会計・特別会計・水道事業会計の決算と基金運用状況について、地方自治法その他関係法令の規定に基づき審査した結果、決算書などの計数に誤りが無く、予算ならびに運用はその目的に沿っておおむね適正に執行されていると認められました。

・一般会計・特別会計・基金

市政の重要目標である「なりた自然郷構想の実現」、「保健福祉館の整備」、「都市計画道路郷部線の整備」、「教育施設の整備事業・西中学校改築」についての予算執行状況は、当初の予算の期待する効果をほぼ達成したものと認められます。

今後、これらの施策も含め、事業を円滑に進めるためには健全な財政運営を維持しなければなりません。現在の景気動向を見る限り、今後の財政状況は大変厳しいものが予想されます。しかし、「日本一住みよいふるさと成田」「ずっと住み続けたいまち」の実現を目指す本市としては、都市基盤の整備、少子高齢化の本格化、環境問題の対応、教育改革への取り組みなど多額の財政需要が見込まれています。これからも、市税をはじめとする自主財源の確保に努めると

もに、行財政の合理化、事務事業の見直しなどを積極的に推進し、「最少の経費で最大の行政効果」を上げる効率的な行政運営を行う必要があります。

また、財源の重点的、効率的な配分により市民福祉の向上と市政の発展に一層努力されるよう要望します。

基金については、特定目的基金として14基金、定額運用基金で6基金を運用しており、その運用状況の計数は正確で適正であると認められました。

預入れ金利の低下など、厳しい環境下であります。基金の目的に沿った、確実に効率的な運用を要望します。

・水道事業会計

建設改良事業では、計画的に配水管敷設工事、老朽管敷設替工事などが実施され、生活用水の安定供給に対する施設整備の充実が図られています。

安定した水道水の供給には、老朽管の敷設替えなどの施設拡充整備は不可欠です。将来にわたる財政負担見通しに基づき、公営企業の経済性を発揮しつつ、安全で良質な生活用水の安定供給に対する努力を望みます。

くわしくは監査委員事務局（☎20 1572）へ。

バランスシートが示す 市の資産と負債

バランスシートとは

バランスシートとは、一定の時点での資産や負債などの財政状況を表したものです。

4・5ページの「平成13年度決算のあらまし」は、一年間を通じてどのような歳入があり、それをどのように歳出したのかを報告しています。一方「バランスシート」は、過去の積み重ねによる市の財産はどのくらいになったか、そのために借り入れた金額がどのくらいなのかを示しています。

バランスシートから分かること

本市のバランスシートは、一般会計すべての特別会計および水道事業会計を含めて作成していますので、市の全体像を知ることができます。

資産は、市が保有する財産の内容を表しています。道路、公園、小・中学校などの公共施設や基金などで、将来にわたり行政サービスを提供するための資源であるといえます。

負債は、将来にわたって支払いや返済の必要があるものです。市民が長期にわたって使用する施設を整備するための財源として、市債（国などからの借入金）などを利用しています。これは、施設を使用する将来の市民にも、その費用の一部を負担していただくものです。

正味資産は、資産から負債を差し引いたもので、将来に負担を残さない資金です。市税や国・県からの補助金などで賄ったものです。

バランスシートを見ると、資産に対して正味資産の割合が高く（73・4％）、本市が健全な財政運営を行ってきたことが分かります。

作成の条件

国の基準により、昭和44年度以降の決算統計により作成してありますので、43年度以前に取得した資産は計上されていません。また、44年度以降に売却や滅失により除却されても資産として計上されています。

今回のバランスシートには、土地開発公社や開発協会などの財団法人は除外されています。仮にこれらを合算すると市民一人当たりの資産は238万円、負債は67万円、正味資産は171万円となります。

成田市全体のバランスシート

（平成14年3月31日現在）

〔資産〕		〔負債〕	
1. 固定資産	1,922億6,800万円	1. 固定負債	561億9,400万円
総務費（市庁舎、防災施設など）	111億3,100万円	地方債	478億7,200万円
民生費（保育園、福祉作業所など）	48億5,100万円	退職給与引当金	80億8,300万円
衛生費（ごみ処理施設、リサイクルプラザなど）	110億4,800万円	その他引当金など	2億3,900万円
労働費（勤労会館など）	1億2,100万円	2. 流動負債	30億9,800万円
農林水産業費（農道、排水路など）	49億2,700万円	翌年度に支払う市債など	
商工費（東和田駐車場、公衆トイレなど）	11億5,900万円	負債合計	592億9,200万円
土木費（道路橋りょう、公園、河川など）	613億1,500万円		
消防費（消防署、消防車など）	24億4,400万円	〔正味資産〕	
教育費（学校、図書館、公民館など）	514億3,100万円	国からの補助金	224億1,300万円
卸売市場（水産棟、青果棟など）	21億1,400万円	県からの補助金	26億6,600万円
下水道（下水管、ポンプ施設など）	256億3,500万円	市税などの一般財源	1,388億3,200万円
水道（配水管、配水場など）	160億6,500万円	正味資産合計	1,639億1,100万円
その他	2,700万円		
2. 投資等（出資金、貸付金など）	171億3,500万円	負債と正味資産の合計	2,232億0,300万円
3. 流動資産（現金、預金など）	137億4,400万円		
4. 繰延資産	5,600万円		
資産の合計	2,232億0,300万円		

バランスシートについてくわしくは財政課（☎20-1512）へ。

市民一人当たりのバランスシート

人口 95,850人

資 産	233万円	負債	62万円
		正味資産	171万円